

令和7年度学位授与式・修了式式辞

本日、新田知事をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和7年度富山県立大学の学位記授与式・修了式を挙行できますことは、誠に慶びに堪えません。これも、ご来賓の皆様をはじめこれまで本学の教育・研究を支えてくださった多くの関係の皆様のご支援、ご尽力の賜物であり、教職員を代表し、心から御礼を申し上げます。

そして、今日の佳き日を迎えられた工学部と看護学部、大学院工学研究科と看護学研究科、並びに、看護学専攻科、653名の卒業生、修了生の皆様とご家族の皆様、今日の卒業、修了を心よりお慶び申し上げます。

本学は開学以来、「富山県の発展をめざした県民の大学」を建学の理念として、教育・研究に取り組んできました。工学部では、ものづくりや設計、分析といった学びを通して社会の基盤を支える力を、看護学部では、人の命と生活に寄り添い、科学的根拠に基づいて支援する姿勢と判断力を育んできました。分野は異なりますが、いずれも現場に向き合い、地域の課題に応えるという点で、本学の理念を体現する学びであります。

これからは、本学で学んだ知識を駆使して、社会の荒波の中を突き進んでいてください。その先頭となって活躍されることを期待しています。

富山県は、ものづくり産業を中心とした確かな産業基盤と、地域医療・看護を支える体制、そして人と人との結びつきという大きな魅力を有しています。一方で、人口減少や高齢化、担い手不足など、地域社会が向き合う課題も少なくありません。こうした中で求められているのは、与えられた役割をこなすだけでなく、「もっと良くできないか」「他に方法はないか」と問い続ける姿勢です。

皆さんに期待されていることの一つが、イノベーションを生み出すということだと思います。そのための能力は本学在学中に身に付けられているかだと思います。ここで、皆さんにイノベーション創出に関係する一つの言葉を紹介したいと思います。 スティーブ・ジョブスの言葉です。ジョブスは皆さんご存知の通り、アップル社の創設者です。代表的な「イノベーション」を起こした人物です。彼はスタンフォード大学の卒業式祝辞の結びで、次の言葉を贈りました。

“Stay Hungry. Stay Foolish.”

この言葉は、失敗を恐れず、常に新しいことに挑み続けよ、という強いメッセージとして、多くの人々の心に残っています。この式辞はあまりにも有名で、YouTube でその映像を見ることもできますので、興味を持った人は、一度見てください。

私はこの言葉を、皆さんへの「チャレンジ精神を忘れないでほしい」という励ましとして受け止めていただきたいと思います。無謀であれということではありません。現状に満足せず、より良い方法を探し、学び続け、挑戦し続ける心を持ち続けて欲しいという願いです。

工学部で学んだ皆さんには、安全性や信頼性を大切にしながら、より良い仕組みや社会の在り方を追求し続ける技術者としてのチャレンジ精神を期待しています。看護学部で学んだ皆さんには、人の尊厳に寄り添いながら、より良い看護とは何かを問い続け、学びを深めていく専門職としてのチャレンジ精神を持ち続けて欲しいと思います。その積み重ねが、皆さん自身の成長だけでなく、地域医療や地域社会の質を高めていくことに繋がります。

そこで、もう一人、イノベーションを起こした人物を紹介したいと思います。先ほどお話したスティーブ・ジョブスに大きな影響を与えた日本人がいます。ソニーの創始者の一人である盛田昭夫氏です。

ジョブス氏は、盛田氏について、自分やアップルの社員に大きな影響を与えた、と語り、また、パソコン：マッキントッシュの工場を作るときに、ソニーの工場を模倣し、構築したとまで言われています。盛田氏の言葉で、「とにかく思い切ってやってみようじゃないか。間違ったらまた帰るのだ。」というのがあります。彼もやはりチャレンジすることの大切さを言っています。

社会はこれからも大きく変化し続けます。正解が一つではない時代において、大学で学んだことがすぐに通用しない場面に直面することもあるでしょう。しかし、現場で考え、学び続け、他者と協働しながら新たな道を切り拓いていく力は、皆さんを必ず支えてくれます。どうかチャレンジ精神を持ち続け、自らの可能性を信じて歩みを進めてください。

そこで、イノベーション創出に関わる活躍が期待されている皆さんに花向けの言葉を送りたいと思います。これは、「ジョルスン物語」という、世界初の長編トーキー映画（音声の出る映画のことです）の中で最初に話された、映画史に残るセリフとして有名です。トーキー映画もイノベーションの成果と言ってもよいかと思います。このセリフはイラストレータ兼エッセイストの和田誠の代表作である映画エッセイのタイトルにもなっています。私は、1975年に出版された彼の本を学生時代に見つけました。映画のイラストと名言を紹介するという本の企画にも興味を持ったのですが、それ以上に本のタイトルを気に入りました。そして、この言葉をいつも心に思い続けています。

それは、「お楽しみはこれからだ。」です。

皆さん、これまでの学生時代を通して準備は十分できていることと思います。これからは、社会人となって、あるいは、進学して、常にチャレンジ精神を持ちつづけ、存分に活躍してください。その先には楽しい人生が待っているはずです。まさに、お楽しみはこれからです。

最後になりましたが、今日まで卒業生・修了生の皆さんを温かく支えてこられたご家族の皆様、関係者の方々に、大学を代表して心より感謝申し上げます。

す。卒業生の皆さん、富山県立大学は、これからも地域とともに歩み続けます。そして本学は、いつまでも皆さんの母校です。工学と看護、それぞれの専門性とチャレンジ精神を胸に、富山、そして社会の未来を支える存在として活躍されることを、心から期待しています。

本日は誠におめでとうございます。

令和8年3月20日

富山県立大学学長 小笠原 司